

わんぱく学園ニュース

平成16年3月 No102

花見月…

春らしくなりましたね。

萌え出づる春、子どもの成長を寿ぐ、心の節句ともいえるひな祭りを迎えましたね。

1月の半ば、我が家の周りでいつもより早く春を見つけました。冷たい雪解けの土を割り、そっと小さな顔をのぞかせた蔭の臺(ふきとう)が私に子育てへの大きな夢を膨らませてくれました。

今は日だまり中、萌黄色(もぎきり)のふっくらとした顔で、アトリエ“おちらと”の玄関先で来客の目を楽しませてくれています。

さて、1・2月に楽しんだ『わんぱく学園』の遊びの一部を紹介いたします。

★粘土であ～そぼ!!

1月25日・2月1日、陶芸家 安食ひろ校長と一緒に、粘土をコネコネして遊びました。アトリエ“おちらと”の小さな建物に、入りきれない程の子ども・大人が集まりました。うれしかったですね～…。

初めていらしたお父さん・お母さん・お子さんもいつしか緊張感も解れ、お互いに声を掛け合い、いつの間にか皆友達・仲間になるという交流風景があちこちで見られました。

この日は電動ロクロの使いはじめもしました。安食ひろ校長の身をもっての手ほどきを受けながら、あの粘土の固まりが信じられない程、見るまに茶碗・コップ・花瓶などへと変身していきました。いつしか陶芸家になった気分さえ味わうことが出来たひとときでもありました。友達が作り上げようとしている時も、みんなの心はひとつ。息をひそめ、どんな作品が出来上がるのやら?と興味深々。10本の指だけでなく全身で粘土と真正面から向き合うあの心地よさが、皆の心を集中させてくれました。

この時期、冷たい粘土に手がかじかむのも何のその…。ひろ校長のあの温もりに、みんなの心もホッカホカ! わんぱく学園に来てくれる子どもらのあの笑顔。その笑顔を生み出してくれるのは、安食ひろ校長のあの不思議なパワー。

不思議なパワーって?——— それを感じたい人は、どうぞ!! わんぱく学園へ、おいでませ～!

お互いに比較する心が少なければ少ないほど、わかり合えるのでは……と思う私です。 (土江 記)

★じっくり のびのび描いて

あ・そ・ぼ!! (ギャラリー“ミチル”)

2月15日のわんぱくには、南場さんのお母さんと、かずしくんと、みかさんが来てくれました。

かずしくんとみかさんには、この間行ったスケートの絵を描いてもらいました。ここでひとつ発見がありました。かずしくんは、似顔絵がとてもしょうずなのです。スケートに来た人たちを次々に書いてくれたのですが、そのどれもがとてよく似ています。特に原幸枝先生は特徴がうまくとらえられていて、みんな大笑いでした。本人を前にしていてもなかなか描けないのに、かずしくんは本人がいなくても、その人の特徴を思い出して絵を描くことができます。

最後のころにはお父さんも入って来られて、みんなでお茶を飲みました。いろいろな話が聞けて、とても楽しく有意義なわんぱくの時間になりました。 (槇野 記)

◆3月の「わんぱく学園」のメニューは下記の通りです。

3月 7日	スケートあそび (湖遊館) 滑走料・靴代(1000円)ご準備下さい(担当・槇野良樹 職長)
21日	お菓子づくり (平田小学校・家庭科教室) 材料費300円です (担当・原幸枝 教諭)
28日	粘土であ～そぼ!(担当・安食ひろ 校長・アトリエおちらと 主任) ミニサバイバルファイアの皆さんとの交流

集合時間 9時15分・集合場所 光人塾前駐車場《お問い合わせ 土江62-2667》

[文責 土江 和世]